

CASBEE神戸 ver.2 (仮称)ワコーレ細田町6丁目 新築工事		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.2		■評価ソフト: CASBEE神戸 ver.2 / CASBEE-BD_1		
スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>4.1</b>
<b>1 音環境</b>				<b>4.0</b>	0.15	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>
1.1 騒音	40dB(A)以下とする。	3.0	0.50	4.0	0.50			
1.2 遮音		<b>5.0</b>	0.50	<b>4.1</b>	0.50			
1 開口部遮音性能	T-2サッシを使用する。	5.0	1.00	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能	Dr50以上とする。	3.0	-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	Lr45以上とする。	3.0	-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-			
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35	<b>5.0</b>	1.00	<b>4.4</b>
2.1 室温制御		3.0	0.50	5.0	1.00			
1 室温		3.0	0.63	-	-			
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を満たす。	3.0	0.38	5.0	1.00			
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.5</b>
3.1 昼光利用		4.2	0.30	3.4	0.50			
1 昼光率	共用部は2.5%以上、住戸部は2%以上確保。	5.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策	庇及び、カーテン又はブラインドによりグレアを制御。	2.0	0.30	4.0	0.50			
1 昼光制御	庇及び、カーテン又はブラインドによりグレアを制御。	2.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
<b>4 空気環境</b>				<b>4.2</b>	0.25	<b>4.2</b>	1.00	<b>4.2</b>
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	すべての内装材にF☆☆☆☆以上の材料を使用する。	5.0	1.00	5.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.1</b>	0.40	<b>4.4</b>	1.00	<b>4.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	各住戸にてGigabitクラスのブロードバンドが利用可能。	3.0	-	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化誘導基準(望ましいレベル)を満たしている。	4.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	3.5	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画	内装計画の段階で石などの天然素材を導入する計画としている。	4.0	1.00	4.0	0.50			
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	仕上げ材には維持管理に適した材料を使用する。	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	維持管理に配慮した計画とする。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.2</b>	0.30	-	-	<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	品確法劣化等級3を取得する。	5.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	内装仕上げ材について耐用年数16年以上の材料を使用する。	4.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	30年以上耐久性のある材料を使用する。	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.2</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブルを使用する。	4.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>3.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高は2.9m以上。	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造材を傷めることなく修繕・更新が可能。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1	生物環境の保全と創出		<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2	まちなみ・景観への配慮	まちなみとの調和を図った計画。	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
3	地域性・アメニティへの配慮		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.9</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を満たす	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3	設備システムの高効率化	BEI 非住宅 - 住宅(専有部) 1.00	<b>4.1</b>	0.50	-	-	<b>4.1</b>
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		-	-	-	-	
	集合住宅の評価(3c)		4.1	1.00	-	-	
4	効率的運用		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
	集合住宅の評価		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1	節水		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.5</b>	0.60	-	-	<b>2.5</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	解体時に躯体と内装材が分別可能。	3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用	すべての内装材にF☆☆☆☆以上の材料を使用する。	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2の排出率は、62%。	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1	大気汚染防止		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車施設の確保と配慮。	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	